

平成30年度 第56回 仙台城南高等学校 卒業式  
校長 式 辞

平成31年も弥生3月を迎え、ここ八木山地区も間もなく春の陽気に包まれようとしています。

本日この佳き日に、多くの御来賓そして保護者の御臨席を得て、平成30年度仙台城南高等学校第56回卒業式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。

ただ今、特進科42名、探究科177名、科学技術科170名の、計389名に卒業証書を授与しました。生徒の皆さん卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんは、現在、卒業と言う日を迎え、やり遂げたと言う達成感で胸が一杯のことと思います。それは、もちろん、皆さん一人一人の努力の賜物では有りますが、一方で、皆さんを、これまで、どんな時でも愛情を持って支えてくれた御家族、辛い時でも一緒に悩み励ましてくれた友達、また、時には優しく時には厳しく指導に当たってくれた先生方など、多くの方々の支えが有ったのことで、ここで一度立ち止まり、これまでお世話になった方々に、改めて感謝の気持ちを持って頂きたいと思います。

保護者の皆様に於かれましても、本日は誠におめでとうございます。お子様の晴れの姿を目の当たりにされ感慨も一入のことと存じます。これまでの御努力に敬意を表しますと共に、本校教育に対する多大な御理解・御支援に、改めて感謝申し上げる次第です。

さて、今年度は、仙台城南高校と校名を変更して、6年目に当たる年でありました。本校の現在を見れば、生徒達の活動は年を追うごとに大きな広がりを見せてきており、多くの方々から、活気溢れる学校と、高い評価を得ています。

4年前に、一部の文化部員の発案から始まった「文化部合同発表会」は、今年度も8月に宮城野区文化センターで開催され、どの部も日頃の活動成果を立派に発表し、センターのホールが満員で埋め尽くされるなど、運動部とは一味違った、文化部ならではの「城南パワー」が炸裂した一日となりました。

また、9月に開催した、本校の文化祭である、城南フェスティバルでは、力作のクラス展示や、年々レベルが上がって来ているステージ発表、それに模擬店には、生徒達ばかりでなく、保護者の皆様も参加されるなど、まさに、学校を挙げての大変楽しい、そして、多くの来校者で盛り上がった文化祭となりました。

部活動の面では、本校の伝統部である、空手道部は県総体・男子団体組手で32回目の優勝、また、同じく伝統部であるレスリング部も、県総体・男子学校対抗戦で、35回目の優勝を果たすなど、本校のこれまでの伝統をしっかりと守りました。

また、フェンシング部も同じく県総体・男子団体戦で、惜しくも優勝は逸したものの、男子個人のフルーレとエペ競技で1位と2位を独占するなど、城南フェンシング部の復活を

確実なものとなりました。

また、ダンス部も、9月の「全日本高校チームダンス部選手権大会」では小編成部門で、全国第3位を獲得するなど、強豪校がひしめく中で、着実に実力を付けてきています。

また、吹奏学部は、部員が何と11名と少ない中で、8月の「吹奏楽コンクール県大会」では小編成の部で金賞を獲得するなど、チームワークの良さが光ったこの一年でした。

それに、自然科学部は、学校内に生息する野生の「トウホクサンショウウオ」の研究で、東京や北海道でも研究発表するなど大忙しの一年でした。

学業の面でも、科学技術科3年の茂庭彩花さんは沖縄で開催された技能五輪の「情報ネットワーク施行部門」に、殆どが専門企業の、エンジニアばかりの中で、女子高校生としては全国で初めて出場しました。

また、取得した資格の、難易度などで評価される、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰では、科学技術科3年の佐々木涼太君と佐藤駿輝君の両名が特別表彰を受賞し、更に、佐々木涼太君は、全国で毎年10人程度しか選ばれない「理事長賞」を今回受賞しました。

それからの記憶に残るものとして、硬式野球部主将の高橋良平君が、第100回目を迎えた夏の甲子園を目指す全国高等学校野球選手権記念宮城大会で、出場校67校を代表して選手宣誓をしました。立派な選手宣誓でした。

ただ今、御紹介した以外でも、生徒達は部活動に資格取得に頑張り、また、東北工業大学の先生方の熱心な御指導を得て、興味や関心を湧かせながら探究活動や課題研究などに励みました。

この3年間で、様々な「新たな芽」を出し始めた皆さんが、今後、どのように成長していくのか楽しみにしています。

今後、皆さんは、これからの人生に於いて、多くの方々との出会いが、有ることでしょう。世の中には、生き生きと仕事や、毎日の生活の中で頑張っている方々が沢山いらっしゃいます。そのような方々の目は、いつもキラキラと輝いています。何が、そうさせるのか……。

言える事は、そのような方々は「夢や希望」をしっかりと持っている、言うことです。そして、その「夢や希望」を叶える為に、日々努力されており、それが目の輝きに表れています。

もしもこの卒業生の中に、将来への「夢や希望」をまだ持ってないと言う生徒がいれば、出来るだけ早く「夢や希望」を持って下さい。「夢や希望」を持つことで人は強くなれるものです。

ただし、「夢や希望」を持ったとしても、そんなにたやすく叶うことは無いものです。その過程では落ち込むことも何度も有ることでしょう。そのような時には、以前、全校集会で紹介した、SINGO☆西成さんの「焦らず、腐らず、諦めず」の言葉を思い出して下さい。

早く叶えようと、焦ってはダメ。どうせ自分なんかと、腐ってもダメ。そして、最後まで諦めないで、自分を信じて進めと言うことです。

「夢や希望」を持つこと。そして、「焦らず、腐らず、諦めず」の精神で最後まで粘ること。この二つを、私から皆さんへの最後のメッセージと、したいと思います。

皆さんは、いよいよ、慣れ親しんだ「学び舎」を離れ、それぞれの道を、歩むこととなります。仙台城南高校での思い出をいつまでも心の拠り所として、皆さん一人一人が輝かしい未来に向かって、邁進することを期待しています。

結びに、本日、御臨席を賜りました、御来賓、並びに、保護者の皆様、そして、卒業生389名の、今後の御健勝、御多幸をお祈り申し上げ式辞といたします。

平成31年3月1日 仙台城南高等学校 校長 中川西 剛